

花川病院 野原 麻衣 (看護師/3階病棟)

功 績 2階回復期リハ病棟で新型コロナ陽性患者15名、職員19名中2階回復期看護師8名・介護士3名発生した。陽性患者、濃厚接触者対応で、通常より人員が必要な状況でスタッフの確保は大きな問題であった。他病棟からの支援の求めに野原は11月採用看護師だが、前病院でクラスターを経験しているからと快く手を上げてくれた。10日間であったが、夜勤も含め、陽性者の病室を中心に看護ケアにあたり、当該病棟スタッフの負担軽減、感染抑止に貢献した功績。

推 薦 者 丹羽すみ子 (看護部長)

推 薦 理 由 今回、クラスターを経験し、当該病棟の看護師、介護士は、同僚が陽性となり勤務できなくなり、残されたスタッフは疲労困憊、極限状態の中で頑張り続けた。その状況を何とか軽減するためには、人の確保が必要であった。他病棟に支援を依頼、3名の看護師が快く手を上げてくれた。支援を受け余裕をもって当該病棟看護師、介護士は勤務できるようになった。特に野原は当院の勤務経験はまだ3か月だったが、前病院でクラスターを経験しているからと自ら進んで希望してきた。すぐに夜勤と即戦力に対応し、当該病棟のスタッフの負担軽減と感染抑止に貢献したことを理事長賞として推薦します。

内 容

2階回復期リハ病棟でクラスターが発生した。患者さんのみならず、看護師、介護士にも陽性者が続出し、発生5日後には病棟の職員確保ができない状態であった。

当該病棟スタッフは疲労困憊状態でも、弱音を吐かず、休日返上で勤務調整をしたが、限界であり、余裕がない勤務では感染拡大につながる。

すぐに他病棟に応援を依頼し人選したが、家庭の事情等で中々選出できず困っていた。

その中で、3名の看護師が手を上げてくれた。特に、野原は11月から勤務したばかりであったが、クラスターを経験していて、その大変さを理解し、自身の経験を少しでも活かしたいとのことであった。

すぐに即戦力となり、陽性患者を中心に看護ケアを受け持ってくれた。

陽性看護師が復帰し、10日間の勤務であったが、当該病棟のスタッフの負担軽減、感染抑止に大きく貢献した。